

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-4-21 第649回例会 NO.14-38 2004-4-28 発行

◎司会 SAA委員会 正房 正孝

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「四つのテスト」
ソングリーダー 吉沢 洋景

◎お客様紹介 会長 大松 誠二

- ・東京多摩RC 会長 志村 光明様
- ・東京多摩RC 創立35周年事業実行委員長
岡野 一馬様
- ・多摩青年会議所 馬場 孝幸様
渡辺 勝之様
阿部 綾様
岡田 一枝様
- ・米山奨学生 金 今 善様

◎会務報告 会長 大松 誠二

- ① 花見移動例会はすばらしい企画のもと、見事に晴れあがった天気と満開の花々が我々を迎えてくれました。皆さんには喜んでいただけたと思います。特に、赤尾会員の奥様が元気になられ、参加されたこと、本当に良かったと思います。「親睦＝親しみ睦み合う」というロータリーの友情を改めて感じられた旅行だったと思います。
- ② 定例理事会報告
イ 推薦された会員候補者を、配布した「新入会員候補者のお知らせ」のとおり承認しました。クラブ細則10条4節により7日以内（4月27日まで）に文書による異議がない場合には、当クラブとしては入会を認めた事となります。
ロ 菅井信夫会員の退会届を承認
ハ 次期地区役員を承認
女性委員会委員 杉野志保子会員

ロータリー財団補助金委員 伊澤ケイ子会員
ニ 6/20（日）に東京多摩ロータリークラブ創立35周年記念式典 全員登録。6/16（水）の例会は、休会にしてこの式典に振替となります。

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ① 東京日野RCより例会変更が来ています。
- ② 回覧：ROTARY WORLD／パシフィックベース「ROTARY ISLAND」1号
- ③ 本年度の各委員会の委員長さんにお願ひがあります。本年度の委員会の活動の実績報告をしていただきます。後ほど事務局より記載用紙をFAXさせていただきます。
- ④ 私達のクラブも伊藤社会奉仕委員会委員長を中心に多摩市喫煙マナーアップキャンペーンに参加しています。4月19日から23日まで多摩市内の各駅にてキャンペーンをしています。
- ⑤ 回覧：親睦旅行の写真。田中さん写真ありがとうございます。皆さんにプレゼントです。
- ⑥ 回覧：「わんぱく相撲の協賛のお願い」と開催の案内
- ⑦ 回覧：多摩社会福祉協議会のチャリティゴルフ大会への協賛と協力をお願い
- ⑧ 来週4月28日の例会場は「アポロの間」に変更となります。

◎次年度会務報告 次年度会長 菊池 敏

- ① 本日（4月21日）被選クラブ協議会を樹林にて午後6時より行います。
- ② ロータリーの名簿を回覧しますので各自の校正をお願いします。
- ③ 第7回の被選理事会4月7日に事務局で開催。次の5議案について承認されました。
(ア) 次年度予定表の一部変更、(イ) 次年度委員会組織表の一部変更、(ウ) 次年度予算案について、

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階
【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30
【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文
【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝
【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰樹

(エ) 次年度活動計画案について、オ次年度地区委員について

◎近況報告

米山奨学生 金今善様

- ・所属する都立大学の推薦により、3月26日から4月1日までアメリカのオレゴン州ポートランドで行われた行政学会に参加しました。ナイキの本社のある自然豊かな所です。参加だけでしたが、自分の研究分野に関してもとても勉強になりました。
- ・博士課程の3年目に入り、今月、研究成果を論文に仕上げました。都立大学の雑誌に6月か7月に掲載される予定です。是非読んでいただきたく思います。

◎東京多摩ロータリークラブ創立35周年記念式典のご案内

会長 志村 光明様
実行委員長 岡野 一馬様

- ・全員登録ということで式典に御協力いただけると伺って感謝しております。それに応えるように企画を立てますので是非ご参加下さい。
- ・席上配布した「創立35周年記念式典ご案内」のとおり式典を開催いたします。陸上自衛隊東部方面音楽隊による記念演奏会と東京多摩プロバスクラブの設立を記念事業として計画しております。プロバスクラブはイギリスで最初に結成されたもので、事業の実務などを退職した者によるロータリーと同様に奉仕と親睦を目的とするクラブです。東京地区では、3番目のクラブになります。演奏会は、沢山の人を集めなければいけませんので、多数ご参加下さるようお願いいたします。



◎多摩青年会議所「腕白相撲の案内」

馬場孝幸様、阿部綾様他

- ・青年会議所主催の腕白相撲の協賛を昨年同様お願いいたします。会員個人の寄付も歓迎いたします。その願いにお伺いするかも知れませんが、是非御協力下さい。

【委員会報告】

◎出席報告

出席委員会 杉田 誠

- ・会員総数 42名
- ・出席義務者数 41名(出席免除者1名)
- ・出席者数 31名
- ・欠席者数 10名(事前MU0名)
- ・出席率 75.61%

- ・欠席者：阿部 華歌、平野 行廣、北村 幸彦、小林 正、杉野志保子、澄川 昇、高木 淳光、高野 範城、津守 弘範、由井 眞司

- ・補填MU：海野 榮一 4/14 東京麻布RC
田島真由美 4/21 理事会
根本 泰守 4/21 理事会

4/7 最終訂正出席率 76.19%

◎ニコニコBOX

親睦活動委員会 萩生田政由

- 大松 誠二 多摩クラブ35周年記念式典、ご成功をお祈りしています。
- 藤本 吉文 親睦旅行楽しかったですね！！田中さん、写真ありがとう。
- 海野 榮一 親睦旅行欠席・・・にもかかわらずお土産を頂ける！！ということで・・・
" 麻布RCでメイクアップをしました。創立間もない(33回例会)初々しさいっぱいのクラブでした。因みにビジターフィーは4900円でした。
- 宮村 宏 花見例会の写真、ありがとうございます。田中さん、ナイスショットをどうもありがとうございます。
- 赤尾 恭雄 萩生田さん、卓話楽しみにしています。伊澤さん、親睦旅行、ご苦労様でした。
- 伊藤 英也 花見旅行、楽しく過ごさせて頂きました。田中さん、沢山の写真ありがとうございます。
- 遠藤 二郎 田中さん、素晴らしい写真ありがとう。
- 田島真由美 3月夜間例会、カラオケのお釣りで。
" 永いことごぶさたしました。懐かしいお顔の数々・・・ホッとしました。
- 藤原 正範 親睦旅行のおみやげありがとうございます。
- 小林 和夫 ナゼカ、オミヤゲイタダキマシタ。ミナサン、アリガトウ。
- 小泉 博 旅行、皆さん、お世話になりました。田中さん心配かけてゴメンナサイ！！萩生田さん、卓話楽しみで一す。
- 菊池 敏 田中さん、写真どうもありがとうございます。
- 萩生田茂夫 花見旅行、大変楽しく出来、ありがとうございました。
- 加藤喜三郎 花見旅行、残念。
伊澤ケイ子 花見移動例会、桜も見事で、楽しい例会でした。皆様のご協力に感謝いたします。写

真ありがとうございます。
 関岡 俊二 萩生田茂夫さん、卓話楽しみです。
 足立潤三郎 志村会長、岡野実行委員長、ようこそ。萩生田茂夫さん、卓話宜しく願い致します。
 根本 泰守 親睦旅行欠席で残念。しかし、先日浜松の花の博覧会に行ってきました。でも、「花よりうなぎ」でした。
 萩生田政由 萩生田茂夫会長、卓話楽しみにしています。

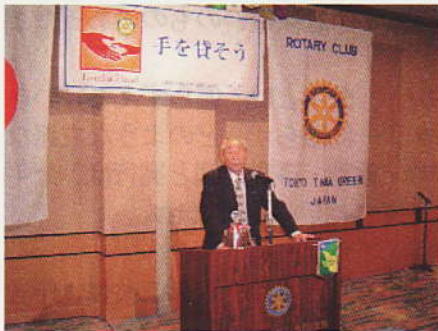
本日の合計 ¥ 34,000 (累計 ¥ 782,061)

(含東京多摩RCご挨拶 ¥ 10,000)

◎国際奉仕委員会 委員長 吉沢 洋景

・国際大会(大阪)参加者の大阪までの切符を事務局でまとめて手配しました。メールボックスに代金請求の袋が入っております。帰りの切符は各自の責任でお願いします。大会のホストイベント案内が来ています。ご覧になりたい方は事務局で閲覧して下さい。

◎卓話 【多摩の古今】 萩生田茂夫会員



・私は、昭和ヒトケタ生まれです。当時、13ヶ町村あったと記憶する南多摩郡の鶴川村が私の生地です。鶴川村は、川の最上流にあります。

昔から田畑山林三等分といって、比較的豊かな農村であり、私も、戦前は川で鰻を採ったりして何も考えずにのんびりと暮らしていました。
 ・戦時中に陸軍の秋季大演習があり、これを見て軍人にあこがれました。たまたま、叔父が軍人で幹部候補生ということもあり、農家の後継ぎより軍人になろうと、世田谷の中学校に進学しました。このころは、交通の便も悪く通学には苦労しました。どうやら卒業にこぎつけたのですが、皮肉にも戦争は終わってしまいました。
 ・終戦後は、食糧不足で、日本は農業国でなくては立ちゆかないというような考えもあり、農業をやることにしたわけです。それでずっと農業をやり、経営もまあまあうまくいっていたのですが、昭和34~5年頃多摩に最初のゴルフ場ができたのをきっかけに、開発の気運が出てきました。そして、農業経営も他との競争がうまくいかなくなり、そうこうするうちに、昭和37年頃に多摩ニュータウン計画が発表されました。そ

の結果、土地の人達も農業を離れて他の仕事をするようになっていったのです。私も農業に見切りをつけ、他の仕事をするようになりまし。その後、時間の経過に従い、ニュータウン計画も進捗し、いつの間にか今のような便利な街となりました。私には想像もできなかったことです。私の生地(の一部)の多摩市への合併に際しては、その名称をどうするかなどで頭を悩ませました。今となれば、懐かしい思い出です。1日でも長生きして皆様と楽しくお付き合いしていきたいと念願しております。

◎点鐘 会長 大松 誠二
 (例会担当：小田 泰機)

ポール・ハリスを我々の心に! Part 45



ロータリー創立から3年、1908年1月にはシカゴクラブの会員は100名を突破していたが、更に2人の会員が入会した。アーサー・フレ

デリック・シェルドンとチェスリー・R・ペリーで、この2人はロータリー運動に挺身する星の下に生まれたよう存在だった。しかも、両者は数年前に既に面識を持っていたのだった。シェルドンは当時書籍店を経営していたシカゴ図書館に出入りし、館員だったペリーに歴史書1セットを売りつけていた。
 間もなくシェルドンは、セールスマンとしての成功はサービス次第で、売り手と買い手の双方に利益がなければ本当の取引ではないとの信念のもと、セールスマンの学校を創った。シェルドンはロータリーに打ってつけの人で、例の故郷の村によく来ていた、インディアンのリューマチ薬キカブーの薬売りとは全然違っていた。後年、英語圏では何処にも多くのシェルドン門下生がおり、多くのロータリー指導者を輩出するに至った。1921年、エジンバラ国際大会プログラム委員会は、アメリカ式「奉仕の理想」をイギリスのロータリアンに紹介した最大の功績者としてシェルドンを選び、同大会の彼の演説は聴くものに限りなく感激を与えた。
 ーポールは思った。ロータリーのような運動を展開するには、20世紀初頭ほど適切な時はなかった。この運動を育てるには男性的で積極的で、しかも矛盾に満ちていたシカゴが最も適した都市だった。当時、シカゴを悩ましていた害毒はアメリカ各地に広がっており、実業界は乱れに乱れていた。消費者、従業員や競争相手に対して道

徳に悖ることが行なわれていた。社会観念が至るところにおいて低調で、正に社会改良の時が迫っていた。シカゴはアメリカ中西部きっての大都市、しかも人種的、政治的、経済的、宗教的に両極端がぶつかり合い、終局的に外観上同質的なものに溶け合っていた、大きな社会的な渦の中からロータリーは誕生したのだった。

ロータリーの誕生は、1905年、ミシガン湖のほとりのシカゴで上演されていたドラマの一場面だったとポールは思っていた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編
「育てるロータリー」

私は、特にけしからんと思うのはメーキャップに来て早退する方がありますが、あれは失礼です。ホームクラブへ出たがどうしても用事があるので帰られるのはまだいいのですが、メーキャップしてほしいと頼みもしないのに勝手に来て、食事だけして帰る。あんな失礼なことはありません。これは、他人の家にきて勝手にご飯を食べて黙って帰るのと同じです。こんな手合がロータリアンでいる限り、ロータリーは進歩しません。まあロータリー以前の問題で、少なくとも紳士のすることではありません。

次にロータリーの増強の理論でよく言われる質か量かの問題ですが、これもロータリーと企業とを考えると、人の生命は有限ですが、企業或いはロータリーは無限だという所にこの問題をしっかり考える必要があると思います。企業が生きて行く為には売上を減らすようでは永遠の生命を保てない、やはり企業が四囲の状況如何に関わらず売上増強を常に夢みている如く、ロータリーも永遠の生命を保つ為には常に会員を増強しなければロータリーは死ぬでしょう。ロータリーはこれからはロータリアンを育てることを考えなければならないと思います。これまでのように出来合いの人を持って来る時代はもう過ぎ去りました。企業と同じようにマーケティング即ち市場開発のための市場調査をして、将来可能性のある若い人をどんどんロータリアンにして、既成のロータリアンがつききりで教育をし、有能なロータリアンを育てあげて行く。私はこの方法が整ったら今迄より優秀なロータリアンが生まれると思います。若い人を入れてロータリー精神をどんどん注入して行くと、それこそ筋金入りの立派なロータリアンが生まれます。私は今こそ育てるロータリーを考える必要があると思います。

堀場雅夫氏の「ロータリーこれでよいのか」より(その2)。

京都 R.C. (P. D. G) (1983年関西ロータリー研究会にて)
(コーナー担当：遠藤 二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

4月号 《言いたい聞きたい》より

なぜ、ロータリアンですか

福島南RC 武藤 正隆 氏

今回のテーマは、大変に難しい、ある意味では誠に意地の悪いテーマです。なぜなら、ロータリー哲学に属する問題提起であるからです。従って、会員ごとにロータリアン論があり得る性質のテーマであり、その答えが、一つに収束することもあり得ないと私は考えております。さて、「単なるロータリー会員」ではなく「真のロータリアン」であるためには、必要最小限の大切なテスト、すなわち「四つのテスト」を、どれだけ実践しているかが問題となると思うので、今回まずこのテストについて、考えてみました。

1. 真実かどうか 作者が熱心なクリスチャンであったことから、当初はキリスト教的真実を意味したと思います。よってその真実とは、絶対の神に対する真実を意味し、大変に厳しい意味合いのものであったと思います。

2. みんなに公平か 公平とは、偏らずえこひいきのないこと。ロータリーに限らず、どのような立派な団体や制度も、思考・言動・事業計画と実行は、公平でなければ皆から支持され信頼されません。

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか この二つは、作者の言葉を借りれば「隣人愛」ということです。両者に共通しているのは、言行は他者にとって有用・有益なものでなければならないということでしょう。3は個別具体的な対人関係について、4は3の充足に加え、なお一般社会全体の観点からも有用有益なものでなくてはならない、ということだと思います。

こうして考えてみると、「四つのテスト」は、ロータリー会員に限らず、人として社会生活を営む上で、誰でも守らなければならない、普遍的な性質をもっていることがよくわかります。このテストをしっかり守り、実践するロータリアンの活動こそが、職場や地域や社会、国家や世界にとってためになる、価値ある事業と評価されるのです。そうしてこそ、誰からも信頼されるロータリー団体になる資格を、初めて、得ることができるのだと私は思っています。「なぜ、ロータリアンですか」。

(コーナー担当：高木 淳光、正房 正孝)